

## 令和4年度 大阪府立摂津支援学校 第3回 学校運営協議会 実施報告書

1. 日 時 令和5年2月6日(月) 10:00~12:00

2. 場 所 本校 会議室(中高等部棟2階)

3. 出席者 <学校運営協議会委員>

西野 陽一(元大阪工業大学客員教授)

大矢 優子(摂津市教育委員会教育委員)

松元 広美((株)ダイキンサンライズ摂津総務課長)

佐藤 裕子(茨木・摂津障害者就業・生活支援センター所長)

中井 啓夫(高槻市柱本自治会会長)

<摂津支援学校>

校長(藤井) 教頭(岩井)(小野) 事務長(與賀田) 首席(坂部・平水)

首席兼教務部長(日高) 首席兼高等部主事(三牧) 部主事(浅井・眞壁)

<傍聴者> 1名

4. 年間テーマ及び協議事項

「創立10周年 新たなるステージへ」

主な内容 ①学校教育自己診断の結果報告 ②今年度の進路状況について

③保護者意見書について

④今年度の総括および次年度の学校経営計画について

5. 説明、質問、協議内容等

(1) はじめに [進行: 三牧] [記録: 日高]

・配付資料確認

・校長あいさつ

学校の近況報告だが、11月頃から始まった新型コロナウイルス感染症流行の第8波の真っ只中である。ただ爆発的な感染拡大はしておらず、コンスタントに休みが続いているという状況である。またインフルエンザも流行の兆しを見せており、体調の変化等の把握に努めている。学年又は学級閉鎖には至っていないが、今後も支援教育課や校医と連携していきたい。

本日は学校教育自己診断の報告、進路、次年度の大まかな計画について、報告及び協議させていただく。学校教育自己診断は、Google フォームを初めて導入した。100%を超える提出率の学部もあったが、ご両親共が入力してくださって、より多くのご意見を吸い上げることができたのではないかと捉え方もできる。

これらの事項について、ご意見をいただきたい。

(2) 学校より報告及び協議 [進行: 西野会長]

①学校教育自己診断の結果報告

教 員: 学校教育自己診断の配付資料(本校HP「学校教育自己診断」のページに掲載済)に基づいて説明。

事前に委員にも結果報告をしており、いただいたご意見には網掛けをしている。また、

12月に配付した資料に訂正箇所があったので、それも含めて報告させていただく。今日のご意見を踏まえて3月の職員会議で報告予定である。

- ・ 実施時期、実施方法について、新しく導入した Google フォームに対する反対意見等はなかったもので、次年度も継続する。
- ・ 提出率については、教職員が2名未提出で98.6%だった。
- ・ 結果報告については、「わからない」という選択肢を増やしたことに起因してか、保護者向けで[11][15][17][22]の項目で肯定率50%台となった。児童生徒向けでも、「わからない」の選択率が上がり、肯定率が下がった。教職員向けでは、昨年度からの課題であった[21]で肯定率が再び下がったが、[5]で肯定率が上がっている通り、個別の指導計画の様式を変更したために学習評価に対する意識が高まったと考えられる。
- ・ 考察および今後の課題については、④で訂正がある。7項目→8項目に、4項目→5項目に訂正をお願いする。
- ・ 学校運営協議会からのご意見については、学校の安全対策として、校門の施錠等が喫緊の課題である。保護者の回答については、特に「わからない」が多いアンケート項目に関して、答えにくいものではないか、学校からの発信が足りないのではないかとのご意見があった。児童生徒の回答の肯定率減少については、コロナ禍が続く気持ちが落ち込んでいるのではないかと、児童生徒の実態が変わってきているのではないかと、また教職員の回答や肯定率の低さに対しては、職場で意見を言い出しにくい雰囲気があるのか、密を避けるなどの時間が続き、コミュニケーション不足になっているのではないかと、等の意見が交わされた。

委員：委員には事前の資料配付と意見集約がされており、今回の会議で追加があればご意見いただきたい。それをまとめて3月の職員会議で報告、学校HPに掲載という流れである。

委員：アンケートを提出していない教職員は、なぜ提出しないのか。

教員：わからないが、他校より提出率は高い。「忙しいのに提出しなければならないのか」と思っている教職員も、中にはいるとは思われる。

教員：Google フォームの扱いに慣れておらず、回答の送信ミスの可能性もある。

委員：どの学部の教職員なのかはわかっているか。

教員：学部まではわかる。今回は小学部である。以前は高等部だった。

委員：特定の教職員が毎年度未提出というわけではないということはわかった。

委員：今日来校した際に、正門受けでは、用件や名前も確認されず、会釈だけだった。学校の安心安全は、何を置いても第一ではないか。教職員も含めて、来校者にひと声かけることが大事だと思う。

委員：摂津市の小学校も受付員はシルバー人材センターからの派遣であるが、やはり門扉の開閉などは難しいので声をかけている。中学校では完全に校門が施錠され、インターフォンで対応している。

- 委員：自宅近くの小学校も校門は閉まっている。どのような場合でも、まずは声かけが大切。声をかけることで（犯行等を）やめる場合もあると思われる。
- 教員：大阪府では大阪教育大学附属池田小学校の事件後に各小中学校に警備員が配備されたが、その後、予算をカットされた。支援学校については、支援教育課の事業費で受付員を募集することにしたが、現実にはシルバー人材センターからの派遣となっている。
- 委員：リモコンで校門を開閉している学校もあるが予算的にかなり厳しい。当面の解決策として、門扉の重みで動かしくくなっている箇所を2月末から修繕予定である。
- 委員：安心安全はお金には代えられない。大阪府の方針であっても、予算を削減したことで事件が起きないか不安を感じる。学校だけで解決できる問題ではないので、府や国に要望していくしかないのではないかと感じた。
- 委員：個人的な感想だが、この診断結果全体を見て、学校の停滞感をやや感じる。どこの学校でも、開校当初は教職員が一体となり「学校を作っていく」という共通の目的意識をもってスタートするので良い雰囲気になるが、10年ほど経ってくると教職員の入れ替わりも進み停滞感が漂いがちである。アンケートの提出率も他校よりは高いかもしれないが、企業などでは100%が当たり前である。現状を打開する、新たな一手が必要な時期に来ているのではないかと感じた。
- 委員：学校教育自己診断アンケートは、非常に丁寧に分析し資料を作成されているが、もう少し労力を削減することはできないか。文言の変更や集計方法など、効率よくできれば、負担が減ると思う。
- 委員：Google フォーム導入で集計作業の労力は削減されたか。
- 教員：今年度はGoogle フォームを初めて導入したことで、不慣れなため時間がかかったが、今年度、フォーマット等を作成できたので、次年度以降はスムーズになるとと思われる。

## ②進路状況報告

- 教員：長期欠席の生徒に関しては、卒業後も在家庭を選択する家庭が増加している。2年生から事業所見学を勧めるなどの働きかけをしているが、現在の生活に困っていないので、なかなか家から出るきっかけにならない。福祉とのつながりが切れてしまわないように環境を整えてから、生徒たちが卒業できるようにしている。
- 生活介護事業所、就労継続支援B型事業所を選択する生徒数は、例年とほとんど変わらない。保護者もしっかりと情報収集をして進路決定している。
- 過去3年間の離職率については、入社2年目に離職したり、離職後に再就職をしたりしている卒業生がいる。
- 委員：長期欠席の生徒は、保護者の考えや家庭の方針の影響が大きい。今年度も残り2か月だが、卒業後、学校や地域から見えにくくなる前に地域と福祉につなげてほしい。
- 委員：地域や福祉とつなげていくことが必要である。
- 委員：家庭内においてもオンラインゲーム等のネット環境を通じた外部のつながりはあるのか。
- 教員：あるかもしれない。基本的に家では快適に過ごしたり、デイサービスだけ行ったりしており、在学中から学校を必要としていない家庭もあるかもしれない。

- 委員：今はそれでよくても、保護者が高齢になったら困ると思われる。
- 教員：中学校段階で不登校のまま、支援学校に進学するケースもある。すぐに結びつくわけではないが、福祉に結びつけることに支援部が中心となって力を入れている。
- 委員：成長の速度は人によって異なる。個に応じて時間をかけながらの支援をお願いしたい。
- 委員：離職した卒業生は、大体何年後ぐらいまで相談に来校するのか。また学校として何年後までフォローしているのか。
- 教員：年数の決まりはない。元の担任に相談があり、そこから進路部につながる流れであるが、教員の入れ替わりで、当該生徒を知っている教員が対応できない場合もある。  
正式には1年後までアフターケアをして“就業・生活支援センター”につなげている。
- 委員：2年目以降も学校と連携をとっていきたい。

### ③保護者意見書について

- 教員：学校運営協議会の投函箱に5月末に投函されたであろう文書が12月に見つかった。  
当該の保護者には対面で説明、謝罪をすることとなっている。内容については、担任と保護者の話し合いの結果、既に解決済み。投函箱の在り方などについて考えていきたい。
- 委員：内容は個人的なことだが、問題は5月投函の文書が12月に見つかった点である。  
善後策を考えているか。
- 教員：投函箱自体を廃止し、郵送や連絡帳に入れる方法のみにしようと考えている。
- 委員：匿名性はどうなのか。今まで無記名はあったか。
- 教員：今まで無記名はない。意見内容によっては聞き取りをすることもあるという規約があるので、どの保護者も記名しているのではないか。
- 委員：Google フォームを利用できないか。
- 委員：Google フォームの方が提出しやすく、また学校側も確認しやすいのではないか。Google フォームが難しい場合は、他のフォーマットでもよい。
- 教員：本校では、学校へのご意見はまず連絡帳に書いてもらい、校長に直接申し出たい場合は校長Dメールがある。様々なチャンネルの用意はしている。
- 委員：保護者の意見は宿題に関するものであるが、この機会に、宿題の扱いはどうなっているのか、各学部ごとにお聞きしたい。
- 教員：小学部では、保護者から希望があれば出している。複製可の問題集コピーなどのプリント1～2枚が目安。まとめて出して、少しずつ提出する場合もある。
- 教員：中学部では、基本的に宿題は出さないことにしている。要望があった場合は、家庭で買った問題集を宿題にし、学校で教員が丸付けをするようにしている。宿題を出さない経緯は、過去に複製不可の問題集をコピーしていたことがあったため。宿題のことは学校見学会や入学説明会で周知しているが、よく入学後に要望が出てくる。  
この件に関して最近学部内で検討し、宿題は授業プリントを出すという案を学部会で話し合った。しかし「保護者はデイサービスで取り組む宿題を要望しているケースもあり、それは家庭で準備すべきではないか」「そもそも宿題は、授業での学習内容の補填的位置付

けであり、授業者が必要に応じて出すものである」という意見が部内教員から出た。

教 員：高等部では、各教科担当者が必要と判断した際、宿題を出している。保護者より家庭学習としての宿題の要望がある場合は、教材や問題集は家庭で準備してもらっている。

委 員：小学校や中学校の宿題は、自分で勉強する機会を設けるという意味合いで課されている。そういう意味では、地域の学校と支援学校のやり方を何となく同じに捉えて、宿題を出してもらおうとしているのではないか。個人的には学力向上のための宿題より、家庭でも実践できる自立活動の宿題が必要なのではないかと思う。

委 員：これを機会に、改めて各学部等で考えてもらいたい。

#### ④今年度の総括および次年度の学校経営計画について

教 員：《令和4年度 学校経営計画 評価》について

1月末に一旦府教委に提出している。2月にヒアリングがあり、修正を求められ、3月に再提出する運びである。

##### 1 安心・安全の教育を進める学校

(1) 人権尊重の教育の推進については、令和3年度とほぼ変わらずであった。いじめについては、学校教育自己診断でも「わからない」が多く評価が難しい面もある。

(3) 危機管理体制については、引き渡し訓練を12月に実施。次年度は保護者参加率を上げるために、土曜実施も検討している。

##### 2 「わかる授業」「良い授業」を追求する学校

(1) 授業改善と授業力向上については、教科研究会で教材展示会やシラバス検討を実施した。授業のフィードバックについては次年度に改善したい。今年度からICT教材のデータを収集し、現在110個のデータが集まった。

##### 3 地域で学び、地域とともに育つ学校

(1) 居住地校交流などの地域との交流は再開しつつある。先日も中学部と摂津第二中学校との交流があった。また各種のスポーツの大会も開催されており、対外試合の参加者数も増えている。

「朝の会」「終わりの会」をキャリア教育の視点で進路部が整理した。年度末発行の研究紀要に掲載している。

4 組織力の向上では、分掌業務の見直しで、業務の偏りの改善を図っている。全国的に教員不足問題が深刻化しており、育児休暇等取得職員の代替がなかなか見つかりにくい現状もある。

《令和5年度 学校経営計画》について

4 働き方改革の推進を図り、学校のブラック企業化を防止したい。府庁からは週1回の17時定時一斉退庁を求められている。本校独自では、出欠連絡等のオンライン化や電話の自動音声対応、職員朝礼での連絡データ化などを計画している。

5 将来構想の検討を追加した。児童生徒数は開校当初の217名から340名にまで増

えている。また高等部では生徒の実態や希望進路先の変化、企業就労希望者数の減少なども起きており、教育課程の見直しも課題となっている。

委員：不登校児童生徒数の実数と入学後に新たに不登校になるケースについてお聞きしたい。  
教員：年間30日以上欠席率は、小学部11.3%、中学部17.4%、高等部27.1%。  
教員：地域校在籍時から引き続き不登校のケースが多い。回数や曜日を決めて自分のペースで登校している生徒もいる。不登校生については月1回の学部会で情報共有している。  
基本的に新たに不登校になるケースはほとんどないが、支援学校への不本意な進学で不登校傾向になるケースもある。  
教員：本人の障がい受容の面で、本人、保護者、中学校の進路選択の溝が埋まっていない場合もある。

委員：ストレス度チェックで、二次検診に行くことが面倒で、ストレスが無いように調査に答えるケースは考えられるか。  
教員：今年度からWEBによる実施。回答率100%だったのでほぼ正確な数値として捉えている。学校として数年前は、危険水域と言われるストレス度120に近い数値であったが、ここ2年は100を下回っている。WEBでの直接回答なので、学校としては個人のストレス度は把握できないが、自己申告があった場合は産業医面接につないでいる。一定のストレス度で二次検診等必須というようなシステムにはなっていない。

委員：将来構想の検討だが、高等部として就労の在り方をどう考えるのか。  
委員：働き方改革の推進とあるが、どこまで進めることができるか。  
委員：学校経営計画の提出について、現状の1月末の締め切りは学校運営協議会で議論できずに提出することになる。これは学校運営協議会の軽視にもつながることが懸念である。  
「令和4年度・令和5年度 学校経営計画」については、追加のご意見がある場合、引き続き各委員よりメール等でも聴取していただいたうえで、学校運営協議会としての承認の手続きを取りたい。

### (3) 事務局より連絡

三 牧：次年度の協議会の予定 第1回 6月13日(火)  
第2回 調整中  
第3回 2月9日(金)

### 【配付資料一覧】

1 次第	2-1~6 学校教育自己診断の結果報告	3 令和4年度進路状況
4 保護者意見書	5 令和4年度学校経営計画	6 令和5年度学校経営計画